

# 上田建設事務所だより



Vol.2 (28年1月～28年2月)

## 2月10日 急傾斜地崩壊対策事業 現場研修会

防災・安全交付金(急傾斜地崩壊対策)事業(上田市和子)の現場研修会を開催しました。

当箇所は、高さ230～300m、傾斜角度30°から36°の急斜面下に人家が隣接しており、平成23年12月4日には、落石が人家を直撃する被害が発生しています。そこで、上田建設事務所では、平成26年度から崩壊土砂防止柵工(インパクトバリア)の工事を実施してきました。

現場研修会には、上田建設事務所の職員や他の建設事務所の職員15名が参加して、インパクトバリアの構造や施工方法について、施工業者から説明を受けました。



(左:現場での説明 中央:施工中のインパクトバリア 右:平成26年度に完成した箇所)

## 1月29日 「雨氷」による倒木災害

1月29日、上田市武石地区及び長和町において、「雨氷」現象が発生し、樹木に付いた氷の重みにより、道路沿いの樹木が大量に倒れ、道路の交通障がいが発生し、国道142号をはじめ4路線が全面通行止めとなりました。地元建設業者の皆さんによる、懸命な復旧作業により、2月5日までに、すべての路線で通行止めを解除することができました。[「雨氷」による倒木災害詳細\(PDF:260KB\)](#)



樹木全体が白くなっていますが、雪ではなく氷です。その美しさは言葉ではとても表せないものですが…。左上は枝に着氷した「雨氷」です。すべての枝にこんな氷が付着してはたまりません。

付着した雨氷の重さに耐えかねて、枝や幹が折れ、倒木となって道路を塞ぎます。



地元建設業者の皆さんにより、懸命な復旧作業が行われ、2月5日までに、雨氷により通行止めとなっていたすべての路線が、通行可能となりました。建設業者の皆さんの昼夜を問わない対応に、改めて頭が下がる思いです。お疲れ様でした。

## 1月28日 日本一短い県道？で取材



1月28日、管内に日本一短い県道があるということで、長野朝日放送「ザ駅前テレビ」(2月6日放送)の取材を受けました。

日本一短いといわれるのは、「一般県道 上田停車場線」。上田駅前広場と中央1丁目交差点を結ぶ県道です。総延長は126.4mあるのですが、一部「主要地方道 長野上田線」との重用(119.4m)となっているため、実延長は7mのみというわけです。下の写真で、横断歩道のあたりが上田停車場線になります。幅員のほうが長いですね。

この県道については、長野県魅力発信ブログ「[じょうしょう気流](#)」でも詳しく紹介されていますので、こちらをご覧ください。



## 1月26日 急傾斜地崩壊防止施設改築事業現場見学会

防災・安全交付金(総合流域防災)緊急改築事業(上田市天神町)の現場見学会を開催しました。

コンクリートブロック積擁壁が老朽化し、コンクリート片の落下や崩壊が懸念されるため、鉄筋挿入工及び張コンクリート工による改築を進めているもので、現場周辺の住民の方など6名の方々に参加いただきました。



当日は、ボーリングマシンによる斜面の削孔から鉄筋の組立、挿入、品質管理試験などを見学していただきました。

## 1月25日 長野県観光マップ贈呈式が行われました



1月25日、矢木コーポレーション株式会社様の創立50周年記念事業として、東御市滋野の道の駅「雷電くるみの里」に長野県観光マップ(案内板)を寄贈していただきました。[長野県観光マップ贈呈式詳細\(PDF:136KB\)](#)

## 宮古の復興支援に尽力

長野県が東日本大震災被災県に職員を派遣しているのをご存知ですか？

27年度、上田建設事務所からは3名の職員が岩手県に派遣され、宮古土木センターで復興支援を行っています。今回は復興まちづくり課の中村誠治さんを紹介させていただきます。

(宮古の印象は？)

宮古に赴任して目にしたのが、国道を行き交うダンプトラックの多さ。復興現場の最前線に来たことを実感しました。ここ宮古は、災害復旧事業だけでなく、広域道路整備、宅地造成のほか、様々な事業が展開されており、掘削土の運搬も想像を絶する量なのです。

(担当している業務を教えてください。)

破堤した宮古湾の防潮堤の災害復旧事業を担当しています。従前の堤防に比して、約2m高い防潮堤を計画しています。担当している金浜防潮堤は、平成28年度末の完成を目指しています。

(現場で苦労した点はなんですか？)



軟弱な地盤を改良(液状化の防止)するために、多くの手間がかけられています。地面の下は、想定外の状況(支障物、岩盤の位置など)があり、補助工法を取り入れるなど苦慮しましたが、何とか目標の時期に改良を終えることができました。現在は、目に見える防潮堤の本体工事に着手しています。

(復興支援を通じての感想をお願いします。)

現場の進め方は、長野県での工事の進め方と基本的には同じですが、扱う施設、スケールが全く違うことで、より緊張感をもって現場監督しています。不慣れな業務をしている点も、相談にのっていただける上司や仲間のサポートのおかげで、順調に仕事を進めることができます。赴任直後は、被災した既存の防潮堤が残る景色でしたが、新しい防潮堤の姿が少しずつ見えてくるまでになり、担当者として、大変やりがいのある仕事をさせていただいていると実感しています。

～やりがいをもって、生き生きと仕事をしている様子が伝わってきました。今年度もあとわずか。健康に留意して、がんばってください。～

---